

自治体・地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業・研究

「地域貢献活動（学生によるボランティア活動）」（2022年4月～2023年3月）

i 連携している自治体・地元産業界等の組織名称

山梨県社会福祉協議会

山梨県社会福祉協議会と本学は、地域の課題解決・豊かな地域社会の創造・発展に寄与することを目的とし、2016年8月19日付で包括的連携協定を締結した。連携内容は以下のとおりである。

- ① 子育て支援等に関すること
- ② 食育の推進に関すること
- ③ まちづくり等の地域振興に関すること
- ④ NPO等の地域活動に関すること
- ⑤ その他、目的達成のため必要な活動等に関すること

ii 連携している自治体・地元産業界等の中期計画・事業計画

山梨県社会福祉協議会 令和5年度事業計画書

本学との連携事業・研究は、「推進施策1：だれもがたがなり、支え合う体制づくり 実施事業（1）市町村社会福祉協議会が行う住民の身近な地域における『支え合い』『助け合い』のための体制づくりへの支援 2 山梨県ボランティア・NPOセンターの共同運営」に関わるものである。

iii 当該連携事業・研究における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標

本学が連携協定を締結している山梨県社会福祉協議会は、ボランティア活動振興に寄与するため、山梨県ボランティア・NPOセンターの共同運営に参画している。人口減少により地域社会が縮小していくことが見込まれる中で、「地域共生社会」の実現に向けては、住民に身近な圏域で、住民が主体的に地域課題を把握して、解決を試みる体制づくりが課題である。その課題解決に向けて、本学では、学生が主体的に地域課題を把握し解決を試みようとする姿勢を身に付けることを目的とした活動に取り組む。

iv iiiの課題の解決に向けて実施する取組の内容

上記の目標を達成するために、次の取組を実施する。取組は2018年度に開始し、2023年度も継続的に実施している。全学生が「真に社会に貢献しうる力」を身につけることができるよう、地域貢献活動（ボランティア活動）を実施している。学生は地域貢献活動への参画により、社会に貢献するとともに、マナーやコミュニケーションなど社会人として必要な力を身につけ、豊かな人間性を培う。学生は、児童・青少年への支援活動、高齢者・障がい者への支援活動、地域の自治組織等が企画・運営する行事への支援活動、NPO団体等が企画・運営する環境整備活動、国際交流に係る支援活動を地域貢献活動として実施している。

v 連携事業・研究の計画・実績・結果

2022～2023年度の活動実績は以下の通りである。

年 月 日	内 容
2022年4月	<p>社会人基礎力育成講座Ⅰ・Ⅱの担当者会議を開催し、2022年度地域貢献活動の実施を検討した。</p>
2022年5月	<p>山梨県社会福祉協議会による講演「地域貢献活動の意義」において、学生は地域貢献活動の目的、意義、マナー、コミュニケーション等について学習した。「ボランティアパスポート」を活用し、本学の地域貢献活動の考え方、進め方について理解を深めた。</p>
2022年5月～ 2022年12月	<p>山梨県社会福祉協議会より山梨県内の地域貢献活動の情報提供を受け、本学は「地域貢献活動ボード」を活用した学生への情報提供を実施した。学生は「地域貢献活動ボード」の情報を基に活動を実施した。学生は、社会支援事業の補助、スポーツ・福祉施設・地域でのイベント運営補助への参加が大部分を占めた。活動実施後は、「ボランティアパスポート」による自己評価を行い、各自で活動の振り返りを実施した。活動の学生の報告をもとに、2022年度の取組の総括を行った。</p> <p><学生からの意見：地域貢献活動への取組み報告（抜粋）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域行事で行われた様々なボランティア活動を経験した。ボランティアの対象は幅広く、内容も異なるものだったが、活動をする際に周囲の人と協力することが必要とされた。ボランティア活動をするうえではコミュニケーションを取り協力することで活動の効率もよくなることがわかった。誰かを助けることの喜びも学んだ。地域の方々と活動することで私の行動が役に立っていると実感した。 ・ 自分が思っていることを言葉にして伝えること、コミュニケーションが大切であることがわかった。また、自分の地域の活動から地域の状況も知ることができた。 ・ 自分が動くことで誰かの役に立っているのが実感できて良かった。自分がやる役割、仕事に責任を持って行うことがとても大切だと学んだ。また、活動が多くの人のためになる、人と人が繋がる大切な役割があることを学べた。奉仕活動の意義を体験することができ、今後も積極的に参加していきたいと思った。 <p>社会貢献の考え方については、入学時において「何らかの方法で地域に貢献していきたい」と考える学生が62.8%であったのに対し、卒業時では82.5%に増加した。以上より、学生は地域での活動をとおして、社会貢献の意識向上につながった。</p>